

令和3年10月15日研究公開報告

令和3年度大隅地区研究協力校研究公開

鹿屋市立南小学校で

「へき地・小規模校教育」についての研究公開が開催されました。

令和3年10月15日（金）に、鹿屋市立南小学校にて、大隅地区研究協力校「へき地・小規模校教育」の研究公開が行われました。南小は、研究主題を「主体的・対話的で深い学びを目指す複式学習指導の研究～数学的な見方・考え方を育む学習指導を通して～」と設定し、2年間研究に取り組みました。公開当日は、通路の計画やオンライン授業参観等、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行いました。

複式学級における指導と算数科指導の双方から提案性の高い研究が大隅地区の先生方に還元される素晴らしい研究公開になりました。



【閉会のあいさつ】
別府 浩 校長先生

【研究発表】

これまでの研究の歩みや成果等について、研修係の増山先生が発表されました。

南小ではガイド役の児童を「リーダー」と呼び、「目指すガイド学習」を低学年から設定し、系統的な実践を全職員で取り組んでこられました。共通実践「聞き方」「話し方」「うなずき方」のマニュアルや「交流のドーナツ」等、具体的なアイデアが多数紹介されました。「数学的な見方・考え方を引き出す発問の例」や「三角ロジックを意識した文章化」等も、算数科の授業を充実させるために効果的でした。



【研究発表の様子】

【授業研究】

複式指導・算数科双方の研究は、本県で大変ニーズが高いため、授業研究における意見交換も活発に行われました。また、5年と6年の数学的活動の違い等にも着目できる有意義な会になりました。まだまだ時間がほしかったという感想が寄せられたほどでした。



【授業研究の様子】

【公開授業：複式第5・6学年】

単元名 5年「図形の面積」

（教材名「図形の面積」学校図書5年下）

単元名 6年「円の面積」

（教材名「円の面積」学校図書6年）

今回の授業では、既習の図形の公式を用いて、5年生は「三角形」、6年生は「不規則な形」の面積を求めることができることを目指していました。担任の野元先生は、日常的な事象（旗の形・南町の形）から児童に考えさせ、本時のめあてを焦点化させるという、導入を大切にされた授業に取り組みました。同時導入・同時間接指導等にも挑戦され、ICTも効果的に活用することができました。ダイヤモンド・サイクルを活用した「振り返り」やポストテストによる「見届け」等、大隅教育事務所が推奨する実践にも積極的に取り組み、その成果を参観された先生方に還元できるよい機会になりました。



【5年生の授業】



【6年生の授業】